

2019年度 かもめ保育園事業報告

今年度、SNSなど使い保育園の宣伝に力をいれ、子どもの受け入れを積極的に行ったものの結びつかなかった。特に0歳児の入所人数が安定せず経営に大きく影響した。地域に小規模保育事業所が増えていることや2017年度からの80名への定員増による公定価格の変更が大きく影響していると思われる。定員を減らしていくことも視野に入れながら今後保育課と話し合っていく必要がある。さらに、駅に近く就学前保育、延長事業も行っている当園に入りたいと思えるような魅力ある保育園の運営をさらに模索していかなくてはならない。新しい事業を行うためには人材確保、人件費の確保が重要になる。そのため今年度、業務改善を組合と共に進めてきたが職員が実際に感じるような業務改善にはつながらなかった。

1、保育園運営

(1) 園児入所状況 (定員 80 名 : 0 歳児 13 名、1・2 歳児 26 名、3 歳児以上 41 名) 【単位 : 名】

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計	月 平均
0 歳児	7	5	6	6	10	9	10	14	12	14	15	15	123	10.2
1,2 歳児	31	31	32	32	34	35	34	34	34	34	33	32	396	33
3 歳児	15	15	15	15	15	14	13	14	14	14	14	14	172	14.3
4 歳児以上	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	28	336	28
合計	81	79	81	81	87	86	85	90	88	90	90	89	1027	85.5

・今年度の月平均入所数は 85.5 人名 (2017 年度 86.3 名 2018 年度 91.25 名)

(2) 健康管理

- ・内科健診は、乳児クラスで月 1 回 (※3 月の検診は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)、幼児クラスで年 2 回実施した。
- ・歯科検診年 2 回、フッ素指導年 1 回、歯磨き指導年 1 回実施した。

(3) 安全対策

①防犯・防災・避難訓練

- ・防犯・防災・避難訓練は、年間計画に基づき毎月訓練を実施した。
- ・消防署職員の指導により、心肺蘇生訓練を実施した。
- ・不審者訓練は、6 月、3 月の 2 回実施した。
- ・10 月に末広小学校での広域避難訓練を行った。

②安全管理

- ・業者による遊具点検 (年 3 回) の結果、滑り台支柱根本部に削れや凹みがあり、階段の踏み台板摩耗が見られたので修繕依頼予定。
- ・業者による砂場殺菌は、年 4 回実施した。

③衛生管理

- ・新型コロナウイルス対策を保育課と連携して職員のマスク着用、施設・利用者のアルコール除菌・室内の換気等を行った。
- ・消毒用アルコールを各クラスに用意して、食事前に使用した。
- ・夏の水遊びの水質管理については、水質状況を記録するなど衛生管理に努めた。

- ・猫による糞害があった。愛知県動物保護管理センターに相談、対応した。

2、保育目標

(1) 今年度の方針に対する取り組み

①家庭的雰囲気の中で、子どもの心も体も健やかに育てる。

- ・乳児クラスで子どもが意欲的に遊びに向くことができるように、環境の設定の改善に取り組んだ。子どもたちの思いを丁寧にくみ取り、寄り添う事で言葉を引き出したり見通しが持てるようにした。

②給食は、保育の一環としてとらえて取り組む。

- ・離乳食を進めるにあたり、一人ひとりの発達をおさえながら進めていく事を確認した。段階を進める目安となるチェックシートを作成した。

③保育所保育指針の改正に伴い、当法人がめざす保育を職員会で話し合う。

- ・保育の中の教育(学び)とは何かをあらためて話し合った。「保育園で真剣に遊び、考えることが大切であり、そこでの体験が学びとなり生きる力になっていく。」と共通認識され、あらためてかもめ保育園の子ども像が土台となることを確認した。

④職員が一つの集団として、園児の育ちや保育を把握して話し合いを深める。

- ・ケース記録をもとに、大人にとって困った行動をするのは子どもが困っているからだにとらえ、子どもの気持ちの振り返りを行いうことで子どもの願いを探り合う話し合いを進めてきた。

⑤支援の必要な家庭には、専門機関等と連携を取りながら保育を行う。

- ・支援の必要な保護者には子どもの様子を伝える中で、保護者の体調・家庭環境の把握をすることを丁寧にを行った。
- ・家庭と定期的に面談を行い、園と家庭の様子を伝え合い育ちや悩みを父母と共に共有した。

(2) 保育内容

	目 標	子どもの姿・クラスの様子
0 歳 児 (ひよこ組)	・個人差をふまえ一人ひとりの発達を保障し、生活リズムを確立していく。	・入所状況が不安定でクラスが落ち着かない日々が続いた。体調・保護者の想い等の関係で対応しなくてはいけないミルクの種類が増えた。あらためて、今まで使用してきたミルクの成分・安全性・価格を調べ対応した。 ・見守り支援家庭に対して、保育内容の伝えや保護者の気持ちの受け止めなどを丁寧にを行った。
1 歳 児 (こぶた組)	・遊びの中で共感することを沢山体験していく。 ・「自分で」の気持ちを出せるようにしていく。	・遊びが見つからない子もいたので、自ら遊びが見つけれられるような環境をつくりなおした。 ・「自分でやりたい」や「だだこね」に丁寧に向き合い、気持ちを引き出して受け止めた。
2 歳 児 (きりん組)	・友だちとの共通体験を通して、共感する楽しさを遊びや生活の中で味わう。	・行動のコントロールが苦手な子どもに対し、父母の働く現状をつかみながら、家庭と連携し、自分らしく、心地よく過ごせる環境を探った。 ・子どもが意欲的に遊びを見つけられるよう、おもちゃの棚の位置など環境設置を工夫した。
3 歳 児 (ぞう組)	・友だちと一緒に「いっちょまえ」の自分に自信を持って楽し	・友だちと遊ぶ中で、つながりがひろがり後半は集団として意欲的に取り組むことができた。その中で、友だち

	んで取り組む。	の気持ちにも気づいていけるようになり、自分と重ねる姿もみられるようになった。 ・手が出てしまいやすい、ガラスを蹴ってしまうなど友だちがびっくりしてしまう事をしてしまう子の気持ちを周りに伝えていった。
4・5歳児 (くじら組)	・友だちの中で認められることで自信を持ち取り組みを楽しむ。 ・仲間と一緒に一つの目標に向かって取り組む。	・安心して自分を出し認めあえるという異年齢ならではの姿があった。年齢の幅がある中で、進んだり・止まったり・戻ったりをしながらありのままの姿を仲間にも受け取ってもらいながら気持ちを伝えあった。 ・気持ちのコントロールが出来なく椅子を倒す、物を投げるなどの行動で気持ちを表現していた子もいたが、周りの子どもにもその子の気持ちを伝えていった。
給食室	・取り組みを通して、食に興味をもつ。	・給食では食をいただくという事の大切さを、絵本や食材を通して伝える取り組みを行った。 ・保護者の食に対する想いを聞き、できる限りの対応を行ってきた。

(3) 施設・設備・備品について

- ・避難車(乳母車)購入(1台)

3. 職員配置

(1) 職員配置

担当	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4・5歳児	給食
配置人員	5名(年度途中で2名増員)	4名	2.5名	1名	2名	3名

- ・保育士のうち正規3名及び常勤臨時職員1名が年度末で退職した。

(2) 健康管理

- ・11月と12月にかけて職員の健康診断を行った。再検査を必要とする職員が数名いた。また、インフルエンザ予防接種を積極的に取り組むように呼びかけ、9割ほどの職員が受けた。
- ・保育室(1歳児室)の環境改善のため、エアコン1台の入れ替えを行った。
- ・特殊検診(ストレスチェック及び職業病早期発見)は、14名が受けた。

4. 定例会議

チーフ会は月2回予定したが、行事・有給対応のため1回と例年と同じ回数だった。(緊急性があるものはすぐ行った)。幼児クラスは補助に入る短時間常勤職員を含めてのパート会を週1回持つように年度の後半固定にしたが、取り組みもあるので、前半から固定会議にして連携や取り組みの確認を持てるようすると良かった。職員会は職員全体にクラスの状況が伝わりやすいように状況記録を作成してきたが、会議に参加しなかったりすると、クラスの状況が伝わりにくいこともあったので、パートのパート会(臨時職員・短時間臨時職員対象)を行い職員会の報告また日頃の悩みなどを話し合った。職員会では報告、討論事項も多く保育の全体討論に時間がつかれないこともあった。また、発言も固定の職員に決まっていたりして集団での話し合いの工夫を感じた。

5. 保育研修

保育の力量をさらに高めるため、積極的にまた意欲的に取り組むため自ら学習計画表をたて研修に参加した。子育て世代の職員は夜、土日の研修には出席が難しいこともあり、文献などでの研修に取り組んだ。障がい児保育についての検討会は会議の時間をとることが難しく開催できなかった。また、年2回の保育実践の検討会では、昨年に引き続き伊藤シゲ子氏（日本福祉大学）を招き実践を振りかえり異年齢の行事について誰のための何の為の行事か、改めて行事のねらいを検討した。

(1) 外部研修

専門家から直に研修を受け、理論的に今の現状と保育を結び付けさらに実践が深まった。特に、全国保育団体研究集会には父母も含め多数の参加し、学習したことを共感できた。

春の年齢別連続講座—5名 斎藤公子のリズム遊び—2名 全国保育団体研究集会—多数

離乳食学習会—2名 幼児教育・保育の無償化問題—7名（内1名保護者）

- ・今年度、愛知で全国保育団体合同研究集研究会が開催され地域の保育施設への呼びかけ、準備等職員も参加した。
- ・年度の研修テーマを各個人で定め、研修計画を立て自主的な学びを目的とした。また、外部研修で学んだ事を職員会で報告してもらい、他の職員と共有した。子育て世代の学びの保障が今後の課題となっている。

(2) 合同研修(かもめ保育園、かもめ三ツ井保育園)

法人職員として、共通の学びの場をと考え子どもとの遊びの楽しさを学べるようにと計画した。

研修名	実施日・場所	参加人数	内容
「そぶたんず」みんなであそぼう	6月9日	29名	・てあそび、ゲーム&シアター、ふれ合い遊びなど保育で使える遊びを、実際に体を動かしながら「そぶたんず」さんから遊びながら学びました。

(3) 園内研修

- ・12月4日（水） 保健研修 講師—立松氏（木曾川作業所 看護師）

実際に起きてしまった子どもの骨折から、保育士としての対応をさらに考えた時、ケガや病気の専門的な知識を職員全体で学びたいという声現場からあがり研修の実施となった。

6. 年間行事

行事について、年度当初の計画どおりほぼ実施できた。なお、新型コロナウイルス感染拡大によりお別れ遠足は行き先をモリコロパークから西浅間公園（一宮市内、徒歩で移動）変更、卒園式を時短、入園式は中止・保育説明会を短時間でいった。

7. 延長保育事業

- ・保育標準時間認定利用者の月別利用数（延長保育時間18：15から19：15まで）

【単位：名】

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日の平均利用者数	15	13	14	11	10	13	13	14	11	14	15	12

- ・保育短時間認定利用者の月別利用数（延長時間7：15から8：30まで、16：30から19：15まで）

【単位：名】

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実利用者数	0	2	1	1	1	0	2	1	1	0	1	2

・年間利用状況 【単位：名】

短時間認定利用者	実利用数	延べ利用数 (7:15~8:30)	延べ利用数 (16:30~18:15)	標準認定利用者	実利用数	延べ利用数 (18:15~19:15)
	6	6	26		60	3,788

- ・職員配置—正規・常勤職員以外に短時間職員5名を配置した。
- ・毎月在園児の約10%の児童が利用。子どもの人数が増えることなく配置した職員で保育を行うことができ、職員に勤務を超過することは少なかった。

8、土曜特別保育事業 【単位：名】

月 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日の平均利用者数	8	12	15	15	15	17	18	18	18	17	14	12

- ・毎月在園児の16%の児童が利用。保育の当日キャンセルがあった日は、短時間常勤職員の方の勤務時間を短くして人件費削減の協力をお願いした。また、乳児の利用が多く職員配置が難しい時もあり、日によるバラツキのため体制を組む難しさがあった。申込・キャンセル等の行き違いが保護者との間にあったので、申込用紙を提出するようにした。

9、子育て支援事業（一宮市委託事業）

(1) 子育てひろば

- ・来所者数は延べ1,198人
- ・子育て及び子育て支援講習会は年間10回開催した。
- ・公園遊び、水遊び、手作りおもちゃなど四季に応じた遊びや育児教室を通して親子間の交流を図った。
- ・利用される中でかもめ保育園の雰囲気を知り入所を希望される方もみえた。
- ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い3月19日より中止となった。

(2) かもめサークル（運営は地域保護者）

- ・来所者数は延べ191人
- ・代表者、4名で運営した。
- ・水遊び、消防署見学、ミニ運動会、クリスマス会などを開催した。

10、一時預かり事業

- ・受入れの延べ人数は、1,640名。
- ・年度の後半になると、予約数が増え私的理由で入れない方が多くなってしまった。
- ・利用調整をするための事務時間の確保が難しかった。
- ・アレルギー児への受け入れを行い、保護者支援の枠を広げた。
- ・利用される中でかもめ保育園の雰囲気を知り入所を希望される方もみえた。

1 1、地域に対する取り組み

(1) 地域との関わり

- ・民生委員 2 名に苦情解決制度の第三者委員を委嘱した。
- ・地域の方に保育祭の参加があり、保育園の様子を伝えることができた。

(2) 地域における公益的な取り組み

- ・かもめサークルに施設の貸出し、子育て家庭の居場所づくりに取り組んだ。
- ・地域子育て支援ホールを毎月 1 回(土曜日)の地域サロンに開放し地域住民の居場所づくりに取り組んだ。
- ・実習生 5 名受け入れ、・高校生 3 名受け入れ・中学校教職員 10 年研修社会人体験 2 名受け入れ人材育成や関係機関とのネットワークづくりに取り組んだ。
- ・「かもめサークル」で地域のイベントを通し、ネットワーク構築に取り組んだ。

1 2、施設設備について

- ・エアコンの入れ替え工事について修繕計画を立てた。2022年度着工に向け今後市と協議していく必要がある。

1 3、苦情対応

- ・近所の方より、一方通行での逆走などの交通違反の指摘を受けた。対策として全体会で注意喚起を行った。